

第 48 回東京春季創画展出品によせて

「みずかがみ・994」

武田 州左

---

幼い日、紙と鉛筆を渡された途端、我を忘れ踊るような線を画面一杯に描いていた。

天空を仰ぎ見るように、利き手は広々とした世界を何処までも羽ばたいて行く。その感覚を、今一度この手に取り戻したいと思う。

…儂くも、一つ一つ未来に向かって輝き放つかけがえのない生命。そのほとぼしりを、力強く描きたい。立ち現れる色と形を見つめつつ、今日も画面を駆ける旅は尽きる事はない。